

浦添市在宅医療ネットワーク（浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー）
症例検討・多職種意見交換会アンケート
受講後集計結果

● 一部抜粋

（平成27年11月13日開催）

- 多職種の方々から色々な意見が出て勉強になった。本人の希望をできるだけ実現するためのアイデアや家族関係の修復の事まで考えている所が良かった。（医師）
- 症例提示を通して各専門職の考えが聞けて、ためになる内容でした。（医師）
- 様々な看取りの姿があり看取りとは深いものだと思います。これからも学んでいきたいと思います。（医師）
- 日常で接する機会のない方々の話を聞いて良かった。出来る事を考えたいです。（歯科医師）
- 私たちのグループでは、表面上の問題を挙げ、介護認定申請からと進めたんですが、他グループ発表では執筆の面のボランティア等の意見もあり、まだ深く考えてのサービスの検討が必要になってくると思いました。（看護師）
- ターミナルケアの事例で、家族の思いを尊重し、多職種との情報共有を図り、在宅で看取る事が出来た家族へのサポート体制、すごく勉強になりました。（看護師）
- 立場はそれぞれですが、同じ目標に向かっているのが皆さんの発表で分かりました。症例形式にするとすごく分かりやすかったです。学ぶ事も多かったです。（看護師）
- 症例の概要についてうまくつかむ事が出来ず、どこから取りかかれば良いのか？考えさせられました。グループワークの発表で勉強する事が出来ました。（薬剤師）
- それぞれの生活環境で、一人一人異なる中で、ご本人様だけでなく家族様も含めたケアが大切である事を学びました。ありがとうございました。（作業療法士）
- とても勉強になりました。在宅医療を進めていく気持ちが強くなりました。（作業療法士）
- 様々な意見、視点、参考になりました。とても心に響く研修でした。（理学療法士）
- 本人の家へ帰りたい意向に、家族も家で看取りたいと話しており、その想いを支えるために必要な事、手段が職種が違えど共通して考えられると改めて学びました。（社会福祉士）
- それぞれが課題と感じている部分は他職種との連携だと感じました。その課題について一緒に考えていきたいと思いました。（コミュニティーソーシャルワーカー）
- グループワークにてケアマネの関わりがその方の最期に大きな影響を与えるとの声があり、身が引き締まった。（介護支援専門員）
- 現在、末期癌の方を担当しています。医療中心でケアマネに出来る事は限られています。本人家族の意向を尊重し、寄り添う支援を目指せたらと思いました。（介護支援専門員）
- 日頃、認知症について働いているが、看取りは癌でも認知症でも変わりなく、一人の人の最期に携わるのが大事だと思いました。病気で痛みがあるが、それをどう軽減できるか考える事が必要だと感じた。ナース、ケアマネ多職種の方の話聞く事が出来、とても勉強になりました。（介護福祉士）
- 「死＝怖い」ではなく「死＝人生」として考える事が出来たのも、先生がいてくれたお陰です。看取りに関し、たくさん考える事が出来ました。（介護福祉士）
- 本人や家族の為に何が出来るか、多職種との連携の大切さを考える事が出来た。（介護職）
- 最終的には病院であろうと在宅であろうと、ご本人と家族がどれだけ心を合わせる事が出来るかが重要で、その為に何がサポートできるかの視点が大切だと思いました。（生活相談員）
- 本人の思いに寄り添い看取りを行った経験を通し、本人の意向、家族の思いに触れ最期を迎える意義について学びました。（支援相談員）
- 今後、もっともっと在宅でのターミナルケアが増えていくのかなと感じました。明日からもう一度考え方を深めて、仕事の姿勢を改めていきたいと思いました。（福祉用具専門相談員）
- 症例ありがとうございました。家族に感謝を伝え、許し合う事、一番大切な事を教えて頂きました。